



# 筑紫女学園大学リポジット

A Study on the Historical Characteristics of the Expressions in 15 Short-short Story Writer : An Anthology of Modern Chinese Literature

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石, 其琳, SEKI, Kilin メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/401">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/401</a>

# 中国現代文学作品集《小小説十五家》における 表現の時代的特徴についての一考察

石 其 琳

A Study on the Historical Characteristics of the Expressions in 15  
*Short-short Story Writer* : An Anthology of Modern Chinese Literature

Kilin SEKI

## 前 言

《中国新文学大系1976 2000》は2007年に出版され、1935年に出版された最初の文学大系以来第五回目のものである。これまで文学大系の編集過程において、時代とともにさまざまな変化が伴うことは事実であるが、今5回目の編集内容で特に注目すべきのは「微型小説巻」が「児童文学巻」とともに増設されたことである。この現象からここ数十年、文学に対する定義概念は時代とともに前進し、内容と文体の様式も拡大され、変化し続けていることが示唆されている。同時に中国現代文学において、微型小説（ショット・ショット）の文体は既に新たな現代文学ジャンルとして定着されたと考える。現在この新文学ジャンルに対しての名称は「微型小説」と「小小説」の二通り存在するが、実際にはその文学的性質が一致しているため、以下は研究資料など引用の必要に応じて、両方の名称を同時に使うことにする。

この新興文体が現在の中国社会において広範囲に受容され、発展してきた理由について、微型小説の提唱者である江曾培氏は「この文体自体は現代社会の快節奏生活スタイルを持つ読者層のニーズに適応すると同時に、創作内容も社会現実を反映するには有利である。さらに創作に対して文風の鍛錬に有利であり、新人を育むことに有利である。時代は経済中心に転化され、現代化の歩みが速くなり、これらの利点が社会に歓迎されることで広く発展性をもたらすであろう。」と指摘している<sup>1)</sup>。現在の微型小説の発展状況を檢視してみると、この指摘は的中している以上に隆盛実態が存在している。そして「この文体は創作内容も社会現実を反映するに有利である。さらに創作に対して文風の鍛錬に有利であり、新人を育むことにも有利である。」点について、この文体が社会現実を反映するに適応していることから、創作の意識と内容もより時代性を踏まえ、多様性に富むものである。そして作品自体が短いため、多くの創作活動中、文風を磨きなが

ら創作力を向上させることも可能であり、よってこれがジャンルの作者と作品を多く生み出した重要な背景であると考える。

1984年頃、全国において経常的に微型小説（小小説）を登載する新聞などの出版物は400以上あり、当時政府側の協力下において、この文体の作品を専門に取り上げる《微型小説選刊》と《小小説選刊》まで発刊出来たのである。これら作品選集の刊行により、全国規模の創作コンクール活動も活発に行われ、この文体の隆盛に拍車がかかり、同時に創作者の増加が創作意欲を高めたことは事実であろう。その後1988年より微型小説（小小説）の創作者たちは個人作品集を出版するようになり、現在は300以上あるとも言われている。

近年文学出版物の販売数が減少する状況下、微型小説（小小説）の関係刊行物の市場需要は年々増加している。2003年以後、作品の選集種類も多様化され、選集と個人集の数も百以上に上っている。その上、ウェブ上にも微型小説作品を専門に扱うサイトが多く現われているのである。

80年代後期、この新興文体が完全に短篇小説から分離し、独自の文学ジャンルを成立させたが、その後10年ほどの鍛錬期間を経て、創作者の数はさらに増加し、創作力も高まったのである。これらの作者のうち、短篇、中篇または長編小説の創作活動の傍らに、微型小説をも創作するという作者も多いが、反面微型小説（小小説）の創作に専念している作者も多く存在し、そのような作者の集団も成立している。そして彼らの多くは自分たちが「微型小説専業者」だと自称している。2003年以後、微型小説（小小説）に関する作品集内容の多様化が見られ、実際の選集数も数百以上あるという実態は、この文体の「形」と「内容」2点の特徴性により成立しているのではないかと考える。

現在出版された選集の種類は、各文学団体からの年度別選集と個人選集が最も一般的で多数占められている。他に政治、ユーモア、家庭、風刺、恋愛、哲学などさまざまな内容で分類したテーマ別の選集も多い。さらに特定の読者層を対象にした、たとえば最も人気のある中学生のための小小説名作選などのような選集も多数出版されている。この現象から微型小説（小小説）が社会において広範囲に受容されている現実が理解できる。そして選集において、その作品の選別基準により、それぞれの作者または作品が持つ独自性を考慮し、重要視すべきではないかと考える。本論は、小小説出版の有力者である「百花文芸出版社」が2005年に出版した《小小説十五家》を対象に、作者たちもつ背景の現実性から、特に創作表現の時代的特徴性を持つ作品を取り上げ、考察したい。

## 第1章 選集《小小説十五家》を選択した理由

《小小説十五家》の内容を検討する前に、まず選集《小小説十五家》を選択した理由及び編集背景、主旨について説明を加えて検討する。

上述したように、現在小小説についての選集が多様かつ多数存在している。今回《小小説十五家》を研究対象に選んだ理由は以下の2点である。

その1：選集の作者たちの創作力について、ある一定のレベルに達しているとみる。

この選集には題名通り15人の作家に各数篇の作品が選録されている。各作者の作品の冒頭には、必ず作者の経歴、創作観についての簡単な紹介がある。その作者の経歴を見ると、それぞれ一定のレベルの文学賞を受賞したり、または多くの作品集を出版して評価を受けているのである。

その2：作品は生活にある多様な情愛物語をテーマにしている点である。

この選集の特徴といえば、編集者が冒頭の「代序」に指摘しているように、この15人の作家の作品を編選する際には、とくに生活の中の多様性に富んだ情愛作と感じさせるほか、素朴で、単純で親しみのある、表現に理性的思考と芸術的面白さが溢れていることを重視している点である。ここでは情愛作と強調されているが、「情愛」の意味は幅広く恋人、夫婦、親子、友達などのさまざまな人間関係に欠かせない要素であり、人間世界において重要視せねばならない永遠のテーマであると考えられる。

以上の2点により、この選集の作品を通して、近年小小説の創作に関わる新現実性<sup>2)</sup>として、その作品表現の特徴を観察する。そして多数の作品下、次章からはテーマまたは主旨などをもとに、それぞれに数編の作品を取り上げながら検討する。

## 第2章 作品から見る創作における表現の特徴

この章において、この選集の重要なテーマである情愛を「男女」、「夫婦」別に分けて、作品の内容を踏まえながら検討する。

### 一 男女情愛の表現について

この選集では男女の愛情をテーマにした作品が多数見られ、ここでは4作品をとりあげる。

#### 作品 「バラの花とパン」(劉国芳 作)

(要訳) 彼女は彼氏からバラの花のプレゼントに憧れている。そして彼は毎年バレンタインデーに必ずバラの花束を彼女に贈る約束をしているし、彼女は彼の情熱に感動している。半年後、彼は国外へ出た後もこの約束を守ったが、最初の数ヶ月は、彼から頻りに電話が来るし、その後の3年間もバラの花束を約束どおり彼女にプレゼントしたのである。しかし彼女は次第に寂しさに耐えきれず、もう彼に帰ってきてほしいと思うようになったが、彼はずっと帰ってこなかった。バラの花束は毎年約束どおり彼女に届けられたが、彼からの電話はほとんど来なくなっていた。彼女があきらめたところで、また約束どおりバラの花束が届けられてきた。彼女は怒って花束を投げ捨てようとしたが、すぐに拾って数えると20数本あった。もしかしてこのバラの花は高価ではないかと考え、早速花束を抱えて町に出た。町には彼女と同じようにバラの花束を抱えている女が多かった。彼女たちは男性にバラはいらないかと声をかけていた。彼女も同じように男性たちに声をかけてみたが、みんな「いらない」と答えた。最後に彼女はあるパン売りの男性に同じことを聞いてみたが、やはり「いらない」と断られた。「やすくするよ」と言ったが「安くてもいらない」と再度断られた。「それなら二つのパンと交換しよう、こんな大きなバラの花束は高いのよ」とつけ加えてみた。そして男性はバラの花を受けとって彼女にパンを二つくれたのだ。

この作品に注目するのは、その恋愛観が「現代的」感覚を表現しながら疑問視する点である。内容に「現代的」と感じさせるところは2箇所見られる。一つは作品に「バラの花束」と「パン」がそれぞれ男女愛情の虚実を表わす点である。一般的に見られる表現法であるが、「バレンタインデーに必ずバラの花束を彼女に贈る」の描写は明らかに現代的恋愛感覚である。この「現代的」意味は、特に経済開放後の物質重視の商業主義に振り回されたライフスタイルを指すのである。近年この現代的価値観に流される現象をさまざまな視角から意識的に多くの作品に取り上げられている。この「バラの花とパン」の作品もその典型的な例であると考えられよう。「高価なバラの花束」も「二つのパン」と同値視される表現が恋愛も商業形式だけにこだわることから始まって、結局形式だけで終焉せざるを得なかったであろう。二つ目は彼氏が外国へ行った点である。これも近年開放後に始まった現象である。一般人が外国に行けるようになった事で、特に若い世代の恋愛事情に深い影響を及ぼすのは事実である。現在外国への留学、仕事などをきっかけに、男女の恋愛の出会い、別れなどがもたらす重要な背景になることは決して少なくはないと考える。

この作品の作者劉氏の創作観に「愛は人類を生き延びるもとであるだけでなく、文学を生き伸ばす力になる。愛のために創作すれば、熱情も生き生きしてやまないであろう」と述べている。恋愛が永遠のテーマであるでこそ、時代と環境の影響を大きく受けざるを得ないであろう。この点に関して、この選集では同じ恋愛のテーマを扱う別の作品も見られる。ここで幾つかのパターンをとり上げる。

#### 作品 「愛情も月餅も賞味期限切れ」 (林夕 作)

(要訳) 彼が出張から戻ったが、中秋の名月が過ぎたにもかかわらず、月餅をお土産で買ってきた。9個の月餅を幾つ食べるか食べないかで迷った末、二人の愛情に縁起のいい数字(個数)がなかなか見つからなかった。くる年の中秋名月に食べようとしたら、保存期間が45日と意外に短かった。彼女は不満げに保存することに賭けてみたが、冷蔵庫とはいえ、やはり一年間の保存は無理だった。そして彼らの恋愛も月餅の賞味期限同様に短くて保存できなかったのである。

食品の賞味期間を明記することは、現代化の新たな生活概念として定着された「規則」である。その現実的理念を恋愛観に反映させ、恋愛も商品化された食品同様に「賞味期限」によって価値を定める事を表現している。ここで作品の最後の部分彼女の思いについての描写に注目する。

今年の中秋の名月、私たちは同じ町にいるが、会うこともなく、電話もせず、月餅も贈らない。月が昇ったとき、ウェブ上で「月餅の賞味期限」をキーワードに入れてみた。数百の情報が出たが、ほぼ同じ内容であった:「月餅の賞味期間」はその含まれている水分、糖分に係する。水分、糖分の含有量が高いほど、保存期間が短く、変質しやすいのである。

この描写は、月餅の「賞味期間」は恋愛に反映して、月餅に含まれる水分と糖分の分量が高

いほど保存しにくいことから、恋愛も情熱ばかりありすぎると冷めやすく長続きしないことを示唆している。経済発展によって、現代化生活が国際化する中、新たな物質の管理基準が日常生活に重要な役割を占めつつ、新しい生活概念として日常生活に浸透し始めている。結果として、さまざまな意識変化をもたらすと同時に新しい価値観も生まれるのである。「月餅」は中国人の歴史において、長い食文化に存在する代表的かつ由緒ある食べ物である。作品に彼らは月餅をいくつ食べるか、また食べる「数」の「縁起」が良いか悪いかをこだわる伝統的価値観で悩むと同時に、その風情ある伝統的食品に、「商品」としての「賞味期間」を考慮せねばならないことは現代的消費生活の現実である。「月餅」をモチーフに使うことで、より時代的感覚を深く印象付けている。作品中、彼女はもともと月餅嫌いだったが、しかし現代化の進行過程で、月餅の種類も多様化され、彼女も食べるようになったとの描写がある。「恋愛観」も月餅同様に多様化されていることはほかの作品にも多く表現されている。以下はその点について観察する。

#### 作品 「昙花网恋」（宗利華 作）

（要訳）彼は外国の風土人情に対してかつてないほど興味を持つことになった。その理由はあるトルコの女性のためであった。彼はあるフランスの女性と別れたあとウェブサイトでトルコ人ペデイと出会った。若くて花が大好きな女の子だった。互いに相手国の文化への憧れを語り合うことで、彼は彼女に対して恋愛感情が生まれたのだ。パソコンの前に座って、彼女のこと、彼女が生活する全ての環境に関する情報を収集しながら、彼女の姿を美しく想像するのだ。そして彼は彼女のいる国を訪ねることを計画し、彼女も歓迎すると言った頃、彼女は急にウェブサイトから消えてしまった。彼はふと自分が彼女の住所を聞いてなかったことに気づき、彼女が再び現れることを待ち続けたが、結局は現れなかった。ある夜、彼は食事をしながらニュースを見た、ある国の地震発生後の映像がテレビから映し出された・・・その国はトルコだったのだ。

この作品に現代の若い世代の異なる恋愛環境を背景に新たな恋愛の形を描写している。この作品の恋愛舞台がパソコンと言う便利な現代的道具の中から作り出された「想像空間」である。この空間と言うのはウェブサイトで出会いの場として「談話室」のようなものである。このような公共空間は、現在のネット使用層において、極普通のことである。だがこの「想像空間」の背後にはリアルな現実世界が存在することも事実である。パソコンを通して自分のいる場所から自由に世界へ発信できるようになったことによって、男女の出会いが限られた身近な生活周辺から、一気に世界各地へと拡大されたのである。作品に彼がフランスの彼女と別れた後トルコの女性ペデイと出会った設定は、ウェブサイトでの現実世界とはいえ、決して空想話ではないのである。

1994年4月に中国が世界のインターネットと繋がって以来、パソコンの普及とIT産業が急成長している。中国インターネット情報センター（CNNIC）が発表した07年6月末時点での中国インターネット利用者数（网民）は一億6200万人で、06年末比で2500万人の増加である。平均して一分間100人ペースで増加している。また携帯電話の利用者数は中国信息产业部の統計資料に



よれば、07年9月末既に5億2000万人を突破し、普及率は40%近くになっている。情報産業省によると既に2005年5月の時点で中国国内のネットユーザーは9880万人で、はやくも米国につぐ世界第2位のネット大国になったのである。当時においてネットユーザーを年齢別で見れば、18歳以下が16.4%、18歳～24歳が35.3%、25歳～30歳17.7%、31歳～35歳が11.4%と全体的に35歳以下、20歳代が中心であることが明らかである。その後更に発展が進んで、ユーザーは18歳以下の若年層と中年以上の年齢層で拡大し、全世代に広がりつつあるのが現状である。

ネットユーザーの年齢層が拡大し普及されたなか、当然ライフスタイルにもたらす影響も多大である。近年中国も日本同様、女性の社会進出、高学歴、高収入などさまざまな理由により、結婚難が若年層の深刻な悩みで晩婚傾向が多いことも事実である。よって、ウェブサイトで結婚を紹介するビジネスも多く存在しており、若い世代を含めて「婚活」（結婚するため見合いなどの活動）する動きも盛んに行なわれている。この社会現象を映画のテーマとして捉えた作品も多く見られるほど、一つの「社会現象」から「社会問題」として特に若年層に強く意識し注目されている。

出会いのチャンスが少ない「恋愛難」の時代に、現代的機械であるパソコンをフルに活用して、恋愛できる世界を拡大し可能性を高めること、それはすでにこの時代環境において、ごく一般的になりつつある。よって恋愛の形も価値観に新たな意識概念を加え、大きく時代的風潮に変貌を見せたのである。作品のように、簡単に世界の人々を対象にした恋愛も可能になったのである。この作品を通して、中国若者層のネットにおける恋愛事情の一側面が伺え知れる。実際中国の大学生の多くが「网恋」（ネット恋愛）が感情的欲求を満たす方法としてみなしているという調査報告もある。しかしやはり機械が作り出す「空間」であり、作品のように、遠く異国までつなぐ恋愛には高いリスクが伴うことも当然であろう。

現在ネットの使用が日常生活に欠かせないのは否定できない。ネットがさまざまな分野において使用され、人々のライフスタイルに変化をもたらし、生活感覚と意識にも影響を及ぼすのである。社会において問題視される面も多く存在すると同時に、人々の人生観に多様性を育てているのである。この選集において、ネット世界を背景に創作した作品は『子供と魚』、『こんにちは、定食ありませんか?』など多く見られる。直接恋愛に関わらなくても、日常的感觉として、ネットが作り出す空間は生活に重要な場として役割を占めていることは明らかである。

ネット恋愛のように、想像の空間から芽生えた恋愛は、どこか現実性にかけることを認識しながら、現実世界に直面できないために身を引きこもる、または仮想の世界に迷いながら徘徊するなどさまざま新たな現実的価値観が現れている。以下はこの点に関係する別の作品を取り上げ考察する。

#### 作品 「各自生活」（叶傾城 作）

（要訳）彼女は北京に来て彼を探す。彼とはあるウェブサイトの談話室で出会った。オンラインでの時間だけの付き合いで、互いに名前も教えなかった。彼は北京出身と言った、彼女も自分

の本命の彼氏が海外にいることを簡単に説明している。彼氏と喧嘩した時、彼に愚痴を聞いてもらうとか慰めあう様な存在になっていた。が、やはりいつの間にか、彼の存在を気にするようになった。・・・彼は既に三日間オンラインしなかった、彼女はメッセージを送り続けていた。ある日の深夜、彼女がすでに眠りについたころ、急に彼がオンラインした、彼女は興奮のあまりに、そのまま北京に来た。彼を探すが、北京についてはなにも知らないし、彼の住所さえも知らなかったが、彼の安否だけが気になっていた。北京に三日間留まった。夜はインターネットバーでオンラインして彼を探し続け、そして彼は再び出現したのだ。いつもの語りぶりでインターネットバーが火事になって暫くオンライン出来なかったことを伝え、彼女が何処にいるのか、同じ火事にならなかったかと話しかけてきた。彼女は安心して涙を汲んだ。そして北京を去り、彼には北京に来たことは話さないと考えた。

彼女と彼はウェブサイトの出会いから、互いに心のゆとりの空間を作ったのである。想像的空間だが、恋愛仲間のこころを慰める大きな役割を果たしている。このような現象が必要不可欠な生活要素になっているのは中国社会に限ったことではない。この選集の作者の世代を見れば、ほとんどが60年代以後の生まれである。彼らが成人する時の80年代または90年代は、中国社会では大きな変動が起きた時期である。携帯電話とパソコンなどの通信機器が当然のように彼らの目の前に存在し、生活に浸透している。実際、機械の存在になれた反面、生の人間同士の付き合いがうまく出来ない傾向もよく問題視されている。作品中、彼女は北京に来たにもかかわらず、結局ネットを通して彼の安否を確認したのである。彼女は北京に来たことについて、彼のためではない、自分の心のためであると彼女は考える。そして最後の部分に大人の恋愛について、時には相手の生死が分かれば、後は「各自で生活すればいいのだ」と恋愛観を締めくくっているのである。実際選集にこの作品と似通った『あなたが住む町を一目見てみたいだけだ』と言う作品がある。電話などの通信機器に頼って、「遠距離恋愛」をしているように、主人公の彼女は彼が常に自分の住む町の雪景色の美しさを語るため、彼女は一目見てみたいと思い、彼に内緒でその町を訪れたが、実際目の前の現実が酷く、そこには雪の気配がまったくなかった。彼に電話で話すと、昨夜もこの町は雪だったとの嘘から、彼が実際にその町に住んでいない事実がわかり、彼女は黙ってその町を去ったのだ。「想像的空間」が作り出した「恋愛空間」はどこか空虚さと偽りをとめない易い環境を作り出すのであろう。

これまで男女の恋愛を中心に見てきたが、以下は恋愛と深く関わる夫婦関係について、その創作の時代的特徴について作品を通して考察する。

## 二 夫婦愛と絆の表現について

選集には夫婦関係に関する作品は多数見られる。社会環境の変化に伴い、作品が訴える価値観も時代的風潮を現している。



## 作品 「朦朧婚」 (林夕 作)

(要訳) 45歳の萍は人羨ましく思われるやさしい夫がいる。夫は教師を辞めて、苦勞を乗り越え事業に成功したが、浮気せず妻を愛している。ある日、萍は友人から夫が若い女と話している浮気らしい現場を見たと言われたが、真剣に考えた末、彼女は夫の浮気の疑惑について追究しないことにした。友人は萍の考えに不満を感じたが、彼女は自分なりの結婚観を持って行動を決めたのだった。

この作品のタイトルの意味から、作者は結婚についての価値観をこの時代において、少し違った意識を示しているように思われる。作品に一番時代背景特徴を現す表現は、彼らは教師だったが、一生貧乏な教職生活で終わりたくないため、市場開放後「下海」(公職から民間企業へ転職、事業を起家するなど)して起業することで、貧乏生活から脱出し、家と車を買って「成功者」として富裕層になった描写である。実際近年このような成功例が多く見られ、その背後には社会問題として最も多かったのは夫の浮気による家庭崩壊である。作品に萍もその危機に遭う可能性があったが、しかし彼女は冷静な「結婚観」を持っているため、家庭崩壊の危機から逃れることが出来たのである。作者は彼女の結婚に対する考えを随所に表現している。夫の浮気疑惑について友人に「よく考えたが、もし自分が彼だったら、ハンサムでお金持ち、当然若い女を欲しくなるし、また若い女からも目を付けられるだろう。・・・私はもう45歳になった、彼から以前のように愛されることは要求できない。」と言ったが、友人から弱気だと貶されたのである。しかし彼女は「私は現実に直面しなければならない。先ず私は離婚したくない。もう彼との生活になれて、彼がいない生活は考えられない。・・・結婚して20年経つが、20年は『朦朧婚』と言うべきであろう。・・・彼は本当に私にだまって浮気していることなら、まだ私のことを気に掛けているはずだし、そして私を悲しませたくない、家庭を守りたい気持ちがあると私は考える。・・・私がもし10年若かったら、あなたと同じようにすぐに分かれると考えるかも知れない。でも20年の婚姻生活から学んだのは、愛情だけで婚姻を評価するなら、婚姻は長続きしないであろう。『愛情』は長い年月を経て『親情』に変わり、『親情』は『愛情』よりも深くて長続きできるし、安定するのだ。」ここまで読めば、近年女性の社会的地位の上昇と自立が目立つ状況のなかで、萍には少々昔ながらの弱者の女性像を思い起こされるだろうが、しかし作品の最後の部分に友人がもし萍の夫は自分の浮気を白状し、萍と分かれたいと言いついたらどうする？と萍に問い詰めたところ、萍は溜め息をつきながら力強く「そうならば問題は別だ。私は彼のことをよく理解している。もし彼からこのような要求が来たら、それは彼が熟慮後にだした結論だと思う。そうすれば私もめめそ彼と喧嘩する必要もないし、彼と別れて、早く苦痛から脱出する努力をするよ。」と答えたのである。ここで萍が結婚さらに人生の挫折に対してがまん強く耐える背後に、結婚生活の本質的意味を理解し、自分なりの人生観を持っているのが知れる。作者は彼女の芯の強さを力強く示し描写しているのである。

夫婦間の浮気問題は、現代に限ったことではないが、しかし現代だからこそ女性も自分なりの

価値観をもって柔軟かつ自主的に対応できるであろう。この作品は主人公萍の思考を通して、ここ30年来、経済政策の開放後の中国社会における夫婦関係の一側面とあり方をより現実的に表現したと考える。この選集中同じ作者の浮気をテーマにした別の作品が収録されている。上述した作品と異なった視点から夫婦関係の問題を取り上げている。以下この作品について考察する。

#### 作品 「愛人の時間的価値」 (林夕 作)

(要訳) 彼女は彼の愛人になった。彼は彼女に対して家を与えて、電話も毎日するし、每晚必ず会いに来てくれる。物質的にも精神的にも彼女は満足しているが、どこかひそかに彼の妻になりたい気持ちは残っている。ある日彼に冗談半分で彼の家庭を見たいと言ったが、意外にも彼はすぐに承諾したのだ。彼は妻と子供を旅行に行かせて、彼女を家に招待した。この家の家具のほか、に全てのものに関して言えば、彼が彼女に与えた家より平凡で豪華さに欠けていた。彼女は自分がその妻に勝ったと自慢げに思い喜んだ。「座れば」！彼は腕時計をはずして、すぐそばの古いたんすの上に置いた。彼女は彼のこの動作に違和感を覚えた。なぜなら彼は彼女のところに来たとき、絶対に腕時計をはずさなかったし、常に時間を見ていたのだ。一瞬彼女の自慢とうれしい気持ちが消えてしまった。「どうした？」彼は彼女の不機嫌さに気づき何気なく尋ねてみた。「私のところに来たときは腕時計をはずしたことはなかったのね。」「そうかな？よく覚えてなかったけど。何か飲む？コーヒーはどう？」とコーヒーを作りに行った。彼の背中を見て、またあの腕時計を見ると、彼女は悟った、やはりこの「家」だけが彼にとって安らぎの場所であり、彼の心が癒されるのだ。自分は彼とは激情で結ばれただけに過ぎない。激情は一時的なものであって、「賞味期間」が切れればいずれ冷めてしまうのだ。

この作品に作者は淡々と細かく「彼」の何気ない動作を描写しており、そして男女の愛の虚実を鋭く捉えている。小さな仕草から大きな人生観が醸し出されている。妻と子供がいる「家」で何気なく腕時計をはずした動作から彼の家庭に対する全ての価値観を示唆させているのである。この作品は上述作品 同様女性の心理を中心に描写しているが、重要なポイントは現実世界に敵対する正反対な立場にいる二人の女性の思いを違った視点で表現している点である。そして時代が変わり、自由恋愛により形が変わっても、由緒ある夫婦間の絆は最も現実的で深いものだとして作者は主張したいのであろう。夫婦の「絆」といえば、現実の生活の中では、実にさまざまな形で表現し、存在するのである。ここでさらにこの選集に大変興味深い視点で描写した作品をみたい。

#### 作品 「糖醋排骨」(豚骨付き甘酢煮) (海飛 作)

(要訳) ある日彼は自分の社長室にいながら、なかなか落ち着かない。どうしても前妻の骨付き甘酢煮の料理が食べたいのだ。前妻と離婚した理由は彼の浮気だった。彼は前妻に電話をした、番号を押しながら、初めて前妻とデートをした時と同じ心境だった。前妻は彼の要求に戸惑ったが、彼がしつこく頼むため躊躇しながらも了承した。15分後彼は前妻の家のソファに座って、前

妻が料理するのをみつめている。前妻の背影は、意外にもこれまで付き合った女の誰よりも綺麗に見えた。もし自分がちょっとお金持ちになって遊びまわらなければ、今も毎日前妻の料理する姿を眺められるし、前妻と過ごした昔の歳月が幸せに感じるのはいらない。料理はできた。前妻は彼になぜこの料理おいしいかと問いかけながら、「この料理は甘くてすっぱいからだ」と答えを加えた。前妻の夫が戻ってきた。前妻夫婦は彼の前で仲良くくつろいでいた。彼はおいしい料理を食べながら涙ぐんだ。前妻はこの日を待っていたと彼は考えた。

この作品の特徴は、現実で具体性のある食べ物を抽象的愛情の精神感覚との関わりを示唆した点と考える。作者海氏がこのような手法で創作した作品は、この選集において「茶の過程」、「処方箋」、「愛情のとりスープ」などが収録されている。以下はこの3作を取り上げてみたい。

a. 「茶の過程」には彼女の昔の恋人Dが不治の病のため、下崗（リストラされた）された彼女にお茶の勉強をさせ、自分が経営するお茶の店を譲ったのである。しかし嫉妬する夫と不仲になった末、夫が浮気へ走ったのである。昔の恋人が死ぬ前に、「婚姻はお茶と同じだ。最初は味がうすく、だんだんと濃くなって、最後は全て水に溶けて、うすくて味がなくなるのだ。」と彼女に語ったが、彼女は自分の婚姻の現実も茶葉が湯のみの底に沈むのと同様に、味と香りがなくなってしまったと気づくのである。さらにいまどき味と香りがなくなったお茶のような婚姻を耐えながら守っていける人はどれほどいるだろうと作者は主人公の彼女を通して問いかけたのである。

b. 「処方箋」は全くタイプの違う男性二人の間で、恋を彷徨する女は持病を持っている。男性Aは彼女にロマンチックな恋愛を、男性Bは地味に彼女の薬を懸命に探していた。男性Aと楽しくデートしたあと、男性Bの薬を飲むのである。結局男性Aは外国へ行くため恋は終わったが、同時に男性Bも彼女から去った。作品の内容はよくある恋愛物語のようであるが、注目したいのは、作品の最後に彼女が寂しく毎日を過ごしているとき、引き出しに男性Bが彼女の持病のため調査した分厚いノートを見つけた。そしてノートの最後のページに「愛情の処方箋は、誠意10グラム、関心10グラム、寛容10グラム、博愛を若干加えて、弱火で煎じる。」と記されていたのである。彼女は男性Bの寛容な笑顔が眼に浮かんで、涙ぐんだと作品は終わっている。苦い薬であると想像できるが、作者は精神感覚の「愛情」に必要な全ての「栄養素」を「処方箋」に具象化して取り込んだのであろう。

c. 「愛情のとりスープ」貧乏で忙しい生活の中、彼女は息子をお産し、病院で彼は彼女の健康のため、とりスープを作ってくれた。10年後彼らの生活状況がよくなって、そして彼は浮気に走った。浮気相手の紅が中絶した時、彼女は紅においしい「とりスープ」を作った。彼と別れるよう紅に頼んだ。紅は彼と別れたが、数年後重い病にかかった紅の入院先に、彼は「とりスープ」を持って見舞い、紅の事を忘れていないと証明するように語った。彼とはそれきりだったが、ある日紅は彼女に出逢った。そして彼女の手には缶詰の「とりスープ」があった。ある人に会うと彼女は言った。またある日、彼女から紅に一本の電話があった。彼は前夜飲酒運転事故で帰らぬ人となったのだ。彼の車に女が乗っていたが命は救えなかった。紅は涙を流しながら、自分はずっ

と「とりスープ」を拒絶したと思ったが、本当のところ、この「恋」も「彼」も忘れていなかった事実に気づくのである。彼も彼女も「とりスープ」を持って、相手に自分の愛情とやさしさを強調している。相手も実際にこのスープを飲んで、相手の優しさに妥協したのである。その「とりスープ」は結局偽りの愛情を味わうためのものである。

以上取り上げた海飛氏の4つの作品は共通して「愛情」を「食べ物」で表現している。そしてその食べ物が特別なものではなく、ごく日常的なものばかりである。しかし日常的なものだからこそ精神的にも肉体的にも浸みこんで忘れることが出来ないし、またその慣れた欲望から抜け出せないのである。中国の古文獻《孟子》に「告子曰く、食色、性也。」の内容があるように、食欲も性欲も人間の本能であり、かつ生きるために欠かせない重要な営みである。また日常生活の精神面と肉体両方において、深く関わっているのである。

「糖醋排骨」の描写に、作者は人間が本能的食に対する執着は意外と頑固で妥協できない部分が多い点を強調したのである。そして彼が離婚後も前妻の料理の味を忘れられないというものである。食べたい欲望が抑えられないほど普通の常識では考えにくい不合理的な要求を前妻に請う内容を設定したのである。「糖醋排骨」の味イコール前妻の愛情だと本人が前妻の家でその料理を食べるまで気づかなかったのである。普段の生活には、相互的「愛情表現」が現実の営みに、平凡な姿に転化され変えてしまうことが多く、体が慣れてしまうと、当然のように見過ごしてしまいがちである。しかし一旦その「愛情表現」が出来なくなり、例えば人間の食欲を束縛できる料理などを急に食べられなくなると、食べたいという強い意志からその潜んでいる欲望に連動して、「愛情」の感覚が浮上して、作品中の彼同様、それに対しての失落感がより強く現れ、悔やむのであろう。

以上の4つの作品について、「愛情」を具体的五感に関わる食べ物をテーマにしているが、以下また別の形式において、日常的行動をもって夫婦間の愛情を表現する作品を考察する。

#### 作品 「背中ボタン」(宗利華 作)

(要訳) 竹慧はある上着を気に入ったが、ボタンが一行で背中についているデザインだったため、自分ひとりじゃボタン留められないと思い、買うのを戸惑った。一宗は彼女の気持ちを察知し、自分がそのボタン留めを手伝うからと言った。そして竹慧はその上着を着て一宗と入籍の手続きを済ませた。それから毎日竹慧はこの上着を着るとき必ず彼にボタンを留めてもらった。同僚からも優しい夫をもってうらやましく思われた。竹慧は母親になってもこの服を好んできているが、一宗はだんだんと面倒に思い、竹慧にその服はもう古くなったから、もう着なくてよいとこぼした。「もういやになった？」と竹慧から聞き返すと、苦笑いしながら「いやになるわけないだろう」と答えた。ある日竹慧は出張があって、その服を着ていったが、彼の手伝いなしに次の日も着て帰ったのだ。不思議に思いボタンのことを問い詰めると、「あなたがいないと困っても思ってるの？」と言いついた。後に竹慧の出張にもう一人の男性同僚も行ったことを知り、そして妻の浮気を疑いながら、妻にボタンを自分で留めのをみせてくれと頼んだ。が妻に嫌気



をさされ、たびたびの喧嘩で妻は子供をつれて実家に帰ってしまった。ある日一宗の妹が家に来たとき、その服のボタン留めを試してみたら、妹一人で簡単に着脱できたのだ。彼は妻の浮気を疑ったことに後悔し、妻にまたボタン留める手伝いをするから戻ってくるよう頼んだ。沈黙がしばらく続いたあと「もうあの服は着たくない」と妻が言った。

作者はごく普通の「ボタン留め」動作を愛情表現として示したのは明らかである。一宗自らボタン留めの手伝いをすることで、竹慧は自分でできる動作を彼の愛情に甘えたのである。ボタンを留める単純な行為は、日常生活の中において、彼ら二人が相手に対する愛情確認のできるしるしになったのである。恋愛と結婚は上述「お茶の過程」作品の内容に示したように、「結婚はお茶と同じだ。最初は味がうすく、だんだんと濃くなって、最後は全て水に溶けて、うすくて味がなくなるのだ。」と婚姻生活は長い年月の流れの中、平凡の日常生活に「愛情表現」を確認できなくなれば、崩壊するのも簡単であろう。当然この愛情表現の形はさまざまであるし、ここで取り上げたいいくつかの作品に限って言えば、精神的な面を満たすのか、または五感の感覚に何かの形でそれぞれの欲望に満たせるのかによって、夫婦間に形を問わずに深い絆が生まれ、婚姻生活が維持できるのである。またこの作品には愛情表現が「具体的行動」で表わされるところに、昔風と一変した「現代的」であると考えられる。

### 第3章 作品創作表現の時代性について

以上、作品を取り上げ検討してきたが、内容において、男女恋愛、夫婦関係にかかわらず、ある特徴が見られるのである。作品に描かれている中国社会の現実が「現代的」であり、その「時代性」が顕著に現れていると考える。

この選集に男女恋愛と結婚問題が多く関わっており、現在中国では大きな社会問題になっていることは事実である。そしてこの社会問題にさまざまな要因が存在するが、大きな背景として、時代が市場経済への転換からもたらされた影響にあると考えられる。上述の作品からも既にいくつかの問題点を考察したが、ネットなどの発達により、ライフスタイルが変わり、人生観まで変わった実態は、恋愛、結婚、そして家庭と家族の問題の全てに影響を及ぼしているのである。人々は問題を抱え、自分なりに悩み、解決の道を探るのである。この点に関連して、もう一つの作品を取り上げ考察する。

#### 作品 「最終電車」 (海飛 作)

(要訳) ある日彼はどうしても最終電車に乗りたくて、深夜時分に会社の用事を済ませ電車に乗った。昼間と夜間の生産交代がおこなわれる時間帯のため、電車中は出勤、退勤する労働者で混んでいる。彼も数年前までは妻と毎日この路線に乗った。電車を降りると寄り添って暖かくて小さな家に帰った。現在事業が順調で、彼も妻もそれぞれ会社の責任者になり、立派な高級車に乗ることで、混み合っている電車に乗る必要はなくなったのである。電車の中、彼の携帯が次から次



に鳴り出した。愛人、同僚、そして息子からだ。終点について他の乗客に混じって下車したが、道の先に見覚えのある背影が目に入った。妻だった。妻の後ろについて狭い通りを歩いた。ここには昔彼らが住んだ小さくて暖かな家があった。今住んでいる有名な豪邸は、彼ら在必死に頑張るって手に入れた新しい家だった。妻は足を止めた。彼も遠くから妻を眺めた。結局彼らは豪邸に帰らなければならない。明朝早くから仕事が待っている。彼らは偶然にまもなくこの都市から消え去る最終電車に乗った。そして自分たちの昔の記憶が深いところで漂うのを見たのだ。

この作品はこれまで取り上げた作品の内容に関わるさまざまな問題要因について、最も重要な時代背景の変化を明確に示したと考える。作品に彼ら夫婦は自分たちの「事業の成功」から生活スタイルが大きく変化し、豊かな富裕層へ仲間入りしたものの、反面心に空虚を感じ、自分たちの初心を顧みたくなくなり、最終電車に乗って、昔の温かい住処に心の癒しの場を探しに行ったのである。小説の構成から見れば、決して珍しい内容ではないが、これが現在中国社会の普通の現実である点について、注目が必要だと考える。

改革開放後、中国国民の生活状況が大きく改善されたことは事実である。生活レベルが高くなった結果、人々にもたらされた欲望も増加するであろう。あまりにも物質的な追求が重要視されることで、さまざまな影響を及ぼし、夫婦関係も揺るがされ、浮気問題が発覚されれば、家庭崩壊へと小説に描写されている世界は現実をそのまま映し出している。

家庭崩壊の実態には離婚問題が最も重要視せねばならないであろう。経済発展及び都市化の進展により、恋愛、結婚の形式に変貌が見られ、家庭を築く営みも変化しているのである。中国年鑑2008の報告（2007年『中国民政統計年鑑』より）によると1978年以来、結婚率は78年より上昇を続けたが、その後の90年までに下降に転じ、05年には78年当時の水準に落ちている。06年には再び増加するが、離婚率も増加しているのである。そして2008年7月11日中国青年報の調査資料によれば、中国国内で、結婚登記の初婚者数は1992年から2005年の間350万人減少しているのである。原因は結婚の失敗または離婚を恐れる人が増加したと言われている。調査対象の5521人中、22.3%の人が結婚を恐れる傾向を自己認識しており、45.7%の人は身近に「恐婚族」がいると答えている。そしてこれら「恐婚族」は80年代生まれの人が多く見られている。更に若年層の離婚率が年々増加し、そして離婚理由に「浮気」がトップになっていると言われている。これは第2章で取り上げた作品に共通して見られる問題点である。

これらの作品は若い世代、概ね80年代生まれの人たちの恋愛、結婚を中心に展開されたドラマであることは明らかである。彼らは社会環境が大きく変わったあとに生まれ、その中で成長しているのである。例えば外国へ行けること、個人で企業経営が出来ること、経済形態が変わることで収入が増えたこと、ネット世界が展開できたことなど、ライフスタイルが一変し、そこから多様な生活感覚を経験し、この時代に特有な多様な価値観が生まれたのである。各作品の描写には抱えている問題が異なるように見えるが、実際にはそれぞれの問題に、上述資料で示唆した「浮気」という愛情の禁物の要素も多く関わっていることは否定できない。恋愛と夫婦関係もゲーム

感覚で軽く行動判断をするような一側面の実態を反映されたこの選集の作品には、時代性を顕著に表現していると考えられる。

## 結 び

中国の全人口が現代化に向かって、豊かな暮らしを求めるために、さまざまな動きが現れてきたなか、研究報道資料<sup>3)</sup>によれば、特に注目すべき動向は、次のような5つの特徴 多様な階層や利益集団の出現 加速する人口の流動化 深刻化する拝金主義と腐敗 自己主張し始めた民衆 情報技術 (IT) の普及がもたらす変革などがあると指摘している。これらの特徴は、社会のライフスタイルに新風を起し、新たな社会現象が展開されたと同時に、多くの社会問題がもたらされたのも当然である。その社会問題が小説創作のテーマになり、時代の思惑を反映させながら、人々に新たな人生観を思考させる「想像的空間」を与えたのである。

現在、中国社会において、ウェブサイトを、新聞、テレビなど情報があふれるなか、読書する時間が減少する一方、新しい社会風潮がさまざまな社会現象を巻き起こしている。人々のライフスタイルが変化し、多角的な人生観が文学によって表現される時、限られた時間に、微型小説 (小小説) の創作が持つ表現の利点と特徴を生かして、作品の短さに加えて、数多くの読者層を確保している。この形態には限られた字数の中で、一瞬の出来こと、一つ小さなしぐさ、途轍もないものまたは事件など、何か小さな点と面から最大限に広い想像空間と時間が提供でき、完全な人生ドラマを想像させ表現出来るのである。さらにそれに内蔵する大きな思考を哲学的に、ユーモア性、風刺性などを描写できるのが微型小説 (小小説) の一般的特徴であり、かつ優れた技巧である。

これまで取り上げた作品についてテーマ別で論じてきた。言及した作品はこの選集の中の一部分に過ぎないが、しかしどの作品に関しても、「小小説」としての創作上の特徴が十分に示されたと考える。それぞれのテーマにした問題と趣旨を検討すれば、その表現力が高く、作品のテーマと構想も時代的特徴を巧妙に捉えていると考える。そして最も重要視せねばならないのは、作品は中国社会変動の実態と問題点を現実的に暴露と批判にとどまらず、現実の問題を前提として示した上、主人公たちが新しい問題、矛盾と直面し、如何に流動する時代潮流を適応しながら、価値ある人生を成し遂げるかを描写し、問題提起しているのである。

この選集の巻頭序文には優れた作家個人が時代、社会、生活の感覚をしっかりとつかみ、そして生活は大きなテーマの宝庫であることを指摘している。微型小説 (小小説) は文学として現在は広く読者に受容され、その社会的役割と地位の向上に寄与している。

## 注釈

- 1 「江曾培論微型小説」P.63参照
- 2 鄭万鵬氏『中国当代文学史』第12章新現実主義の冒頭に90年代中期に湧き起こった現実主義は「先鋒小説（前衛小説）」、「新写実小説」を超えて、「改革文学」につながるものであると指摘している。「新現実主義」については改革が深化する過程で出現した多様な困難を前にして、その機運に応じて生まれ、新しい歴史的条件下で、個人の生命価値を探求すると同時に全体的な意味で、どのように新しいタイプの社会関係、社会倫理そして道徳を再建するかを探求し、そのために苦難をともにしようと言うもので、改革文学につながり、その発展であると主張している。更に「新現実主義」は実質的には「探求の現実主義」であると説明を加えている。
- 3 「中国動向2006」巻頭特集を参照。

## 主な参考文献

- 「小小説十五家」馬明博 高海濤主編 2005 百花文芸出版社  
「中国年鑑」2008年版 中国研究所著 毎日新聞社  
「レコードチャイナ」2008年7月12日ニュース  
「中国動向2006」共同通信社・中国報道研究会編著 2006 共同通信社  
「中国当代文学史」鄭万鵬著 中山時子 伊藤敬一 藤井栄三郎 李玉敬 翻訳監修 2002 白帝社  
「江曾培論微型小説」江曾培著 2008 上海文芸出版社

(せき きりん：アジア文化学科 教授)